

柳井市教育委員会会議 会議録

1 会議の開催

- (1) 日 時 令和3年10月6日(水) 開会 午後4時15分
閉会 午後5時03分
- (2) 場 所 柳井市役所 401会議室

2 出席委員

教育長	西元 良治
委員(教育長職務代理者)	西原 光治
委員	河岡 治子
委員	厚坊 俊己
委員	横山 志磨

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

教育部長	三浦 正明
教育部次長(図書館・サンビームやない担当)	石岡 雅朗
教育総務課長	有道 茂一
学校教育課長	藤村 信之
生涯学習・スポーツ推進課長	山本 直邦
施設担当課長	重田 泰生
学校給食センター所長	脇村 直孝
教育総務課長補佐(書記)	惣上分 常代

5 傍聴者

なし

6 会議日程

(1) 議 案

①議案第32号 柳井市教育功労者の決定について

②報告第14号 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

(2) その他

7 議事の概要

(1) 開会

教育長から、教育委員会会議の開会の宣言があった。

(午後4時15分 開会)

(2) 会議録署名委員氏名

教育長から、会議規則第13条の規定に基づき、西原委員、河岡委員の両名を指名した。

(3) 議事内容

①議案第32号 柳井市教育功労者の決定について

教育長は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により、公開しないことの賛否を問い、賛成多数により公開しないことを決定した。

(会議非公開)

(会議公開)

②報告第14号 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

教育長は事務局に説明を求め、藤村課長から、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、下記のとおり説明があった。

本調査は令和3年5月27日に資料6ページ中ほどに記載されている目的により実施した。

調査結果の公表にあたっては、調査の目的や、調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること、国や県の平均正答率との比較により、序列化や過度の競争をあおるものではないことを考慮して行う。

資料7ページの調査結果の概要、平均正答率については、柳井市全体として校種、教科を問わず、山口県、全国平均をともに下回る結果である。

それぞれの校種、教科ごとに具体的に出題の趣旨の観点で説明する。

小学校国語では、相当数の児童ができている点として、特に、成果が見られたのが「文の中における主語と述語との関係を捉えること」である。特に課題の見られる点として、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」が挙げられる。

次に、小学校算数では、相当数の児童ができている点として、特に、成果が見られたのが「データを二次元の表に分類整理すること」である。特に課題の見られる点として、「商が1より小さくなる割り算の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算すること」が挙げられる。

中学校国語では、相当数の生徒ができている点として、特に、成果が見られたのが「話合いの話題や方向を捉えること」である。特に課題の見られる点として、「事象や行為などを表す多様な語句について理解すること」が挙げられる。

次に、中学校数学では、相当数の生徒ができている点として、特に、成果が見られたのが「相対度数の必要性和意味を理解すること」である。特に課題の見られる点として、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明すること」が挙げられる。

続いて、児童生徒質問紙について、「愛、夢、志をはぐくむ教育」と関連性が高い項目の結果について説明する。

資料9ページの「自分で決めたことに粘り強く取り組んでいる」において

当てはまると自信をもって回答している割合で望ましい傾向が見られた。特に中学校においては、8ページの「自分にはよいところがあると自信を持っている」において望ましい状況が見られたが、「将来の夢や目標をもつこと」は全国や県の結果と比べて、自信をもって回答している割合が少なく、さらに伸ばしていきたい結果となっている。

次に、10ページの基本的な生活習慣や家庭学習をはじめ、家庭・地域との関連性が高い項目の結果について説明する。特に小学校では、「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」ことにおいて望ましい状況が見られた。しかし、「平日1日あたりの勉強時間」においては、小学校、中学校ともに課題が見られる状況となっている。

次に、11ページの児童生徒の地域や社会への関心と関連性が高い項目の結果について説明する。

「地域の行事に参加している」「地域や社会への参画意識をもっている」ことにおいて望ましい状況が見られた。これは、本市が推進している「スクール・コミュニティ」による教育のまちづくりの成果の表れであると考えている。

最後に、12ページのアクティブ・ラーニングのある授業と関連性が高い項目の結果について説明する。

「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」、「授業では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して自分の考えを発表している」ことにおいて、課題が見られる状況となっている。特に小学校では、13ページの「授業で、友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深め、広げること」はさらに伸ばしていきたい結果となっている。

14ページ、今後の取組については、現在、柳井市では、「学びのサイクル」を意識した授業づくりを推進しており、特に授業で子どもたちが何が分かったのか、どんなことを学んだのかをしっかりと振り返られるような授業に取り組んでいく。

また、ICT活用については、各校で着実に充実してきており、今後の持ち帰りも想定して準備を行っている。

柳井市教育委員会では、引き続き各学校と連携し、確かな学力の定着と、学ぶ喜びが味わえる教育活動の充実に努めていく。

主な質疑応答は以下のとおり

西原委員：(今回調査のあった)国語と数学はすべての学習ベースに値するのではないかと個人的に判断している。多面的に分析したらいいと感じた。課題を検証して改善を図ることが目的であり、しっかり改善策をとり、ボトムアップとかスキルアップを推進したらよい。その中で基本的にはPDCAが必要かなと思う。改善なくして成長はないというふうに思うので、こういった結果を踏まえ

てボトムアップを図っていったらいいと思う。最終的にはデジタルというのはハンドリングより早いわけであり、今、過渡期で追いついていない。本来の機能を発揮できるようにスピードアップしていくべきじゃないかと思う。YIPをしっかり推進し、負担にならないようにツール（タブレット）をしっかりと有効活用できるようにしたらいいと思う。

厚坊委員：平均正答率の数字が独り立ちすると、柳井市の平均は悪いということにもなる。数字は参考であり、個人個人に対し教員がどうフォローしていくか、ということが重要である。「不易と流行」ということがあり、不易なこととは、掛け算や割り算のような基礎的なことを反復練習すること。今、いろいろな授業でタブレットを使い始めたが、いつもそれを使うというのではなく、並行してしっかり繰り返し計算するという習慣を付けさせることも必要である。流行ばかりに時間を割くのではなく、繰り返しすることで、体で覚える手で覚えるようなこともしていく必要がある。そういうことがこの結果になったかもしれない。先生に基礎を大切にするという考え方を持ってほしい。

藤村課長：今年度ICTが導入され、学校では使うことのための授業になっていた。最近、変化が見られ、目的を持ってICTを使わないといけないという声が、先生方から出始めるようになった。振り返りの場面では、タブレットからクラウドへ飛ばすという方法が各学校で流行っていたが、この方法ではかなり時間がかかっていたため、本当にそれでいいのかという声が上がり、それだったら、アナログでもいいので手で書いて評価したほうがいいのではないかと、でも時々ICTの活用も必要だ、分けてやったらいいのではないかと、という声が自然と先生方から出てきている。我々はとにかく使ってくださいとお願いしていたが、これからは何のために使うのか目的をしっかりと明確にしてやっていきたい。

厚坊委員：中学校で授業参観した時に気になったことだが、タブレットの文字入力に時間がかかる。考える時間や計算する時間をしっかりとれるように、小学校の時から発達段階に応じたスキルを付けられるプログラムがあればいいと思う。

横山委員：タブレットの持ち帰りは、学年によってばらつきがあり、小学校の低学年は、ほぼ毎週末に持って帰ってきているようだが、高学年は1回くらいしか持ち帰っていないようだ。低学年の子どもにタブレットは重いと聞いている。保護者の立場として、壊してしまったらと思うと不安である。また、タブレットに興味のある子はいろいろアプリを使っていると聞いている。8ページや9ページのアンケート結果をみると、日頃から会話を大切にしている家庭では数値が上がってくるのかなと思う。10ページのところで

平日3時間以上勉強している子どもがいるが、睡眠時間はきちんととれているのか心配になる。勉強も大切だが基本的な生活習慣も大切であり併せて見守ってあげたいと思う。

藤村課長：タブレット端末の持ち帰りについては、9月末までに1回は持ち帰れるよう準備して欲しいと学校へお願いしている。家庭学習にどのように利用できるかということで、学年で差が出てきている。家庭に通信環境が整っていれば、タブレットドリルを家でやってみるということも可能であるが、通信環境のない家庭もあり、オフラインでできる宿題を考えているが、高学年への対応が難しい。アンケート結果については、それぞれの学校の学校運営協議会で状況報告をし、家庭と地域と連携してやっていきたいという話を校長から聞いている。

有道課長：Wi-Fi環境を整備できない家庭には、モバイルルーターを無料で貸し出せるよう準備しており、通信費のみ各家庭に負担していただく。キーボード付きのハードケースにiPadを入れているため、タブレットが重くなっているが、落下した際の破損防止も兼ねている。

(4) 協議会

教育長から、暫時、協議会とする宣言があった。

(午後4時52分 協議会)

(午後5時03分 再開)

(5) 閉会

教育長から、協議会を閉じ、教育委員会会議の閉会の宣言があった。

(午後5時03分 閉会)

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

教育長 西元良治

署名委員 西原光治

署名委員 河岡治子

調整者 有道茂一